

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3階フロア)

事業所番号	2792600112		
法人名	社会福祉法人 弘道福祉会		
事業所名	門真グループホームラガール		
所在地	大阪府門真市新橋町27-12		
自己評価作成日	平成27年11月24日	評価結果市町村受理日	平成27年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた街で自分らしく毎日を笑顔で過ごしてもらいたい
-----------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は、平成27年に創立35周年を迎える医療法人を母体とし、ラガール(病院と自宅の中間的役割を担う施設)の名前を冠して、病院、クリニック、老人保健施設、老人ホームを医療法人で、小規模多機能型介護、グループホーム等を(社福)法人 弘道福祉会で運営している。ホームは、平成26年12月に、5階建の3~4階部分に、2ユニットで開設された。1~2階には、小規模多機能型事業所を併設している。ホームのケアの特徴と重点は、母体の医療機関のバックアップによる、24時間オンコールによる訪問看護による医療連携体制の整備である。利用者は常に主治医、訪問看護師による、健康管理を受けながらの安寧・安心な健康寿命を維持することができる。法人理念を基本として、事業所独自の理念を「住み慣れた街で、自分らしい毎日を、笑顔で過ごしてもらいたい」として、実践している。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして事業所独自の理念をつくりあげている 理念を共有できるように実践中	法人理念を「安心」「信頼」「貢献」とし、事業所独自の理念を「住み慣れた街で、自分らしい毎日を、笑顔で過ごしてもらいたい」として、玄関に理念を掲げ、新人教育でも理念を話し合い、常に管理者と職員が理念を共有して、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会や自治会や市の行事に参加し、地元の人との交流している。保育園、ミュージアムコンサートへの参加、ふれあい感謝祭の交流。  行事ごとがあれば積極的に参加していく	自治会に加入して、地域で開催される各種の行事に積極的に参加している。盆踊り、敬老会、運動会の見学、文化祭、お花見等やボランティアとの三味線、フルハーフ、ハンド・マツサージ、爪切り等での密なる交流がある。	開設が平成26年12月と、地域での施設の認知度が低いので、家族、自治会の人々、市の開催行事、近隣の各種団体への積極的な参加と啓蒙、事業所での行事の企画等での地域との交流の実践が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回、事業所内で認知症の勉強会している。見学会など行い地域の方に回覧している  認知症の勉強会を続けていく		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において報告・話し合いを行っており、参考意見など実践に努め、そこでの意見をサービス向上に活かしている  2カ月1回実施してく	平成27年2月以降、確実に2ヶ月に1回の会議を実施している。2月～10月までの9ヶ月間に、5回開催し、延べ39名の参加があった。参加者は、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、理事長、事務長・代理等の参加で、双方向的な会議を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市福祉課など頻繁に連絡を取り合い、徘徊や生活保護者について意見を求め、現場にも出向いている  市町村とともにサービスの質の向上に活かしていく	日頃から、市が開催する各種の会議に積極的に参加している。市の担当者とは、常に訪問、電話等での各種の相談・情報交換・指導等を受けながら協力関係を築いている。2ヶ月に1回の運営推進会議時には、地域包括支援センター職員との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学ぶ機会を持ち勉強会を実施中。外出はできている 今後、研修していく頻繁に外出できるように行事など取り組みしていく	全職員は身体拘束をすることの弊害は理解している。定期的に身体拘束排除や虐待防止の研修を行ない、身体拘束・虐待ゼロのケアに取り組んでいる。利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視し、開放感が得られるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学ぶ機会を持ち、利用者や事業内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めていく  今後、研修していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会や個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にそれら活用できるように勉強会を取り組んでいく 今後、研修していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族など不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は書面で報告している  苦情シートを使用し解決していく	苦情相談窓口を設置して意見・苦情・不安への対応をしている。各種行事の案内は、事務局より随時に「お知らせ」の様式で報告をしている。家族の訪問時や運営推進会議等でも、利用者・家族の意見・提案等を傾聴して、それらを、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員研修や常勤者会議で職員の意見、要望を聞いている	毎月グループホーム会議を開催して、職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。評価シート(施設・自己・研修の3目標)を活用して、各職員は期初に目標を設定し、6ヶ月に1回の管理者面談で話し合い、動機づけを行い、スキルアップを図っている。	今後は、認知症の重度化が進んだ利用者の受け入れが予想される。特に、認知症の多様な周辺症状等に対応できる、知識・技術をチームケアとして取り組むことが課題とされるので、これらに対する職員研修が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6か月に一度、評価シートを活用し意見、要望を聞いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価シートを活用し段階に応じて育成する計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会や同業者との交流する機会をもち、質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族と本人に面談し、希望や不安なことを聞き出し受け止めている。相談から利用者に至るまでに本人が困っていること、求めていること等よく聴く機会をつくり、受けとめる努力はしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っていること、不安または希望をじっくり伺い、それらの解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴やグループワークで楽しみ、誕生日会や外食会も一緒に楽しく過ごしている。利用者本人から生活歴や本人の歴史を教えていただくこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真集を開いたり、メモ帳を開いたり、そのころの思い出話など聞いているまた、本人が安心し納得して上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染める	フェースシート、在宅ケアアセスメント表により、利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、従来からの生活の継続性を確保した支援をしている。親しい友人、家族の訪問、馴染みの近隣の散歩、商店での買い物、図書館、美容院、外食等での支援がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した家族との連絡も保っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシート、日々の関わり、利用者の日常の言動、家族からの情報等を収集して、利用者の暮らし方の希望・意向を把握している。把握しづらい面については、利用者の自己決定を促す対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人から、できるだけ詳しく聞いているまた、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境これまでのサービス利用の経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し記録として残しているまた、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力などの現状を総合的に把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している	フェースシート、在宅ケアアセスメント表、診断書、日々の介護記録(介護ソフトを導入、各種ケア項目を各職員がパソコンに入力)、日誌、本人、家族、職員等から個別ケア情報を収集し、介護計画書を作成する。見直しは、会議を行い、評価表で実施する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院・薬の依頼・受け取り・入院退院の付き添うなど職員が支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署からの指導を受け、消防訓練など実施しているまた、本人の意向や必要性に応じてボランティア、マッサージ、文化と協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院などには、職員が付き添っているまた、本人及び家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であるが、あくまでも、本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医の受診の継続を実施している。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、受診が出来るように対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護職員と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師が中心となり、病院等との連携・情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との間でターミナルについての相談を行い、かかりつけ医等とともにチームとして支援に取り組んでいる。あるいは今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「重度化した場合における対応に係わる指針」が有り、早い段階から、その時々での事業所の力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、必要に応じて関係者との連携が取られている。母体の医療法人のバックアップで、訪問看護を受け入れ、医療連携体制を整備し、既に、看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護の24時間緊急連絡先を使用し報告・連絡・対応をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し対応できるようにしているまた、火災や地震、水害等の災害時に昼夜問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるように働きかけている	消防署立会いの避難・救出訓練は平成27年10月に1回実施している。避難訓練実施・地震防災等のマニュアルも作成し、災害時の連絡網も整備している。事業所内にはスプリンクラーを設置し、安心・安全を確保している。	非常災害時の地域住民との連携や職員の避難訓練、特に、深夜に於ける地震・火災等に対する具体的な訓練の頻度を重ねる必要があり、自治会、消防署、運営推進会議等への協力体制が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等個人情報の取り扱いをしていない	法人の入職時新人教育や合同研修会等で接遇についての研修を実施している。全職員が対人援助サービスの知識と技術を身につけて、人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活をしていただくように声掛けを頻繁にして気持ちの把握に努める		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭そりや整容を本人を共に行ったり、美容院へ毛染めやカットに行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、後片付けをしている	献立・食材は、近くの関連施設、老人保健施設の管理栄養士の下で作成・提供される。厨房では、ご飯・味噌汁等を作り、食事の準備、盛付け、配膳、片づけ等は利用者と協働で行い、利用者と職員は共に食卓を囲み、和気あいあいの家庭的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を管理して、体調不良であれば、訪問看護に連絡している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後には必ず口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科による健診を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよくできるよう支援している	排泄子エック表に時系列に記録された記録や個人別の習慣等も考慮して、個人別の排泄パターンを把握してトイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した排泄支援の取り組みを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を確認し水分量を増やしたり、食物繊維のジュースなど提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則時間帯定め入浴しているが、希望があればタイミングに合わせて入浴できるように支援している	入浴は、利用者の体調に合わせて柔軟に対応をしている。浴室の入り口に「のれん」を掛け、温泉気分を味わい、カーテンで羞恥心に配慮している。入浴拒否の場合には、日時変更、足浴、清拭、シャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのカルテには薬の説明書を添付している。変化があれば、かかりつけ医に連絡、調整している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホール清掃、洗濯たたみ、布きりなど、ひとり一人の力に合わせた役割で、楽しみながら作業をしていただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって職員と近隣へ買い物へ行っている。企画をあげ遠足などで車を使用し外出している	利用者の体調や心身状況を考慮して、毎日の散歩、近隣の公園、商店での買い物、お花見、お祭り等で、地域の人々とのふれ合いを楽しみ、外出できない時は、屋上の菜園での、野菜栽培のお世話等での外気浴、日光浴で季節を感じながらの支援がある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり手紙のやりとりできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の貼り絵や絵を飾り季節感をだしている。メニュー表を作成し食事への楽しみを工夫している	明るく、清潔感溢れる居間兼食堂は、観葉植物、テレビ、ソファを置き、ゆったりと寛げる。建物内部は、柱・床・扉・側壁にカラー色の木材を多様し、温もりと、落ち着いた雰囲気がある。壁には季節感のある色紙細工の手工芸品が飾られ、広い廊下の壁には自然風景の写真を掛けて、ギャラリーを思わせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、誰でも過ごされる場所の提供を工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅にあった棚や仏壇を配置したり床を畳にしたり居心地よく過ごせるよう工夫している	清潔で、広い居室は、利用者の馴染みの物が持ち込まれている。テレビ、お仏壇、家族の写真、棚等、従来の生活の継続性を確保している。畳の居室もある。洗面所、トイレ、ナースコール、スプリンクラーも設置し、安心・安全な環境がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール清掃、洗濯たたみ、布きりなど、ひとり一人の力に合わせた役割で、自立した生活が送れるまた楽しみながら作業できるよう工夫している		